

小泉信三 (こいずみ・しんぞう) 1888~1966

経済学者・教育家 ~ 慶應義塾とともに生きた名文家~

出生 1888年(明治21)5月4日(戸籍は10日) 東京市芝区三田(現・港区三田)に生まれる。父信吉は、旧紀州和歌山藩士で当時慶應義塾塾長。母は千賀。1894年6歳のとき父が死去し、福沢諭吉の邸内に一時住む。

履歴 福沢諭吉死去翌年の1902年、慶應義塾普通部に編入学、大学部政治科に進み経済学を学ぶ。1910年卒業とともに教員に採用され、1912年から英・独・仏に留学し、1916年帰国後教授に就任。1933年から1947年まで塾長。1943年帝国学士院会員。1945年5月25日空襲で大火傷を負うが再起。戦後、東宮御学問参与等を務め、現天皇の皇太子時代の教育にあたる。1959年文化勲章を受賞。妻とみは、信三の親友だった作家水上瀧太郎の妹。

事績 経済学者として、「古典経済学の完成者」リカード研究に力を注ぐとともに、マルクス経済学も深く研究し、保守的リベラリズムの立場からマルクス主義を批判した。労働価値説批判はマルクシスト河上肇、櫛田民蔵、山川均等との論争を引き起こし、当時は護身用の意味もこめてステッキを持ち歩いたという。慶應義塾大学で多年にわたり学生の教育にあたるとともに、戦後の新しい皇室のあり方にも影響を及ぼした。民間から皇室に入った美智子妃との「実質的な仲人」ともいわれる。

評価 学者・教育者としての事績にとどまらず、福沢精神の継承者として慶應義塾のシンボリック的存在である。塾長を退任した後の幅広い文筆活動は多くの読者を獲得し、名文家といわれた。仁知勇の知識人として皇太子(当時)の教育にあたったことは、今日も人々の記憶にとどめられている。

代表作

『福沢諭吉』 福沢諭吉の伝記。岩波新書のロングセラー。全集21に収録。

『共産主義批判の常識』 一般の人々もわかりやすい表現で、共産主義批判やマルクス主義の本質を論じた本。原本は1949年のベストセラーで、当館のベストセラーズ文庫にもある。全集10に収録。

『海軍主計大尉小泉信吉』 1942年24歳で戦死した長男信吉を偲んで、1946年私家版として作成し親戚知友に配布。公刊を望む声は多かったが、生前は再び読み返すことが悲しいとこれを許さず、信三の死後刊行された。長男の名前信吉(しんきち)は、信三が幼くして死別した父信吉(のぶきち)と読みだけ変えて名づけられた。子への哀惜の念は今も人の心を打つ。全集11に収録。

キーワード 秩序ある進歩 「くり返し進歩を願う、しかし『秩序ある進歩』を願う」(全集17の同名著作の言葉) スベテ練習ハ不可能ヲ可能ニス 信三はスポーツマンで慶應義塾普通部2年のとき庭球(テニス)部に入り大学時代には主将として活躍し、教授となった後には庭球部長にも就任している。生前好んで口にしたこの言葉を刻んだ碑が慶應義塾大学日吉キャンパスにある。

神奈川 1891年父が横浜正金銀行支配人となり横浜市桜木町に移り住む。1894年横浜小学校に入学したが、父の死により1895年東京に戻った。後年「東京に生まれて、ずっと東京で暮らしましたから、故郷というものがない。強いていえば初めて物心のついたこの横浜がそれで、(略)用もないのに横浜に来て海岸を散歩し、ホテル・ニューグランドで茶を飲んで帰るというようなことをよくしました。」(『私の履歴書』)と記している。当館に自筆原稿『横濱』<K98.1/3>がある。また、1916年結婚して鎌倉小町に住み、長男信吉・長女加代はこの時代に生まれたが、関東大震災に遭い東京に移転した。

最期 1966年5月11日、心筋梗塞のため自宅で死去。享年78歳。



Great Works 26

小泉信三全集 全28巻 文藝春秋 1967~1972年 <081.8/31>

解題 没後1年から5年余をかけて完結した。各巻は単行本を基本に編集され、関連の論文・講演記録等が「追録」として収められている。著者の長期にわたる執筆活動の中で、著作により初版発行後に改訂・増補等が施されているものもあり、重複部分は適宜割愛されている。また、本文の底本は必ずしも初版によらないが、本リストでは初版の出版社・出版年のみを注記した。書誌の詳細は、各巻末「編集後記」に明記されている。なお、全集刊行後に書簡『留学生小泉信三の手紙』(文藝春秋 1994年)と日記『青年小泉信三の日記』(参考文献参照)が新たに刊行された。

内容

- 1 社会問題研究[岩波書店 1920年] 経済学説と社会思想[國文堂書店 1920年] 追録[5篇]
- 2 改訂社会問題研究[岩波書店 1925年] 社会組織の経済理論的批評[下出書店 1921年] 追録[6篇]

- 3 価値論と社会主義[改造社 1923年] 新著評論(社会組織の経済理論的批評の内)[下出書店 1921年] 『社会組織の経済理論的批評』(全集2)の後半] 追録[2篇]
- 4 マルクシズムとボルシェヴィズム[千倉書房 1929年] マルクシズム[岩波書店 1928年] ソヴェエト計画経済[春秋社 1932年] 追録[13篇]
- 5 アダム・スミス マルサス リカアドオ[岩波書店 1934年] 追録[4篇]
- 6 リカアドオ研究[鐵塔書院 1929年 本書中の論文で1934年経済学博士の学位を得る] 追録[3篇]
- 7 マルクス死後五十年[改造社 1933年] 社会思想史研究[和木書店 1947年] 追録[2篇]
- 8 近世社会思想史大要[岩波書店 1926年] 近代経済思想史[慶應通信社 1952年]
- 9 初学経済原論[日本青年館 1938年] 経済原論[日本評論社 1931年] 追録[2篇]
- 10 共産主義批判の常識[新潮社 1949年] 私とマルクシズム[文藝春秋新社 1950年] 共産主義と人間尊重[文藝春秋新社 1951年] 追録[8篇]
- 11 海軍主計大尉小泉信吉[文藝春秋 1966年] 大学と私[岩波書店 1953年] 追録[7篇]
- 12 師・友・書籍[岩波書店 1933年 著者の第一隨筆集] 同 第2輯[岩波書店 1942年] 追録[8篇]
- 13 学窓雑記[岩波書店 1936年] 大学生活[岩波書店 1939年] 支那事変と日清戦争[慶應出版社 1937年] 学府と学風[慶應出版社 1939年] 学生に与う[三田文学出版部 1941年]
- 14 読書雑記[文藝春秋新社 1948年] 読書論[岩波書店 1950年] 古典の読み方[岩波書店 1953年] 私の身边[慶友社 1950年]
- 15 平生の心がけ[文藝春秋新社 1953年] 今の日本[慶友社 1950年] 朝の思想[雲井書店 1952年] 平和論[文藝春秋新社 1952年] 追録[7篇]
- 16 国を思う心[文藝春秋新社 1955年] 思うこと憶い出すこと[新潮社 1956年] 私の履歴書[日本経済新聞社 1966年] 追録[8篇] 皇太子殿下の御婚約 正田美智子嬢 他]
- 17 わが蒔く種[東京創元社 1957年] 朝の机[新潮社 1958年] 秩序ある進歩[ダイヤモンド社 1961年] 追録[6篇]
- 18 この一年[文藝春秋新社 1959年] 河流[新潮社 1960年] 追録[8篇] 福澤諭吉全集 他]
- 19 十日十話[毎日新聞社 1962年] 一つの歧路[文藝春秋新社 1963年] 追録[10篇]
- 20 ペンと剣[ダイヤモンド社 1964年] 座談おぼえ書き[文藝春秋 1966年] わが文芸談[新潮社 1966年] 文芸講演の速記録] 追録[2篇]
- 21 福澤諭吉[弘文堂 1948年] 福澤諭吉の人と書翰[慶友社 1948年] 福澤諭吉[岩波書店 1966年] 生前最後に刊行された著作] 追録[16篇] 福澤先生と私 他]
- 22 アメリカ紀行[岩波書店 1938年] 外遊日記[文藝春秋新社 1954年] 追録[4篇]
- 23 経済学及び課税の原理(翻訳)[デヴィッド・リカアドオ著 岩波書店 1928年]
- 24 労働者綱領(翻訳)[ラッサアル著 岩波書店 1928年]他] 追録[9篇]
- 25 書翰集[上・下2分冊]
- 26 雑纂[明治40年から昭和41年までに執筆した340余篇の単行本未収録の文章を主として収録] 別巻 補遺 父の周囲[長女秋山加代による本書のための書下ろし] 暦[次女小泉夕工による本書のための書下ろし] 参考資料[小泉家系譜並びに関係系譜 親族図] 年譜 総索引[総目次 著作索引他]

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 青年小泉信三の日記 / 小泉信三著
慶應義塾大学出版会 2001年 592p <289.1MM / 4241> 資料番号 21571542
- 📖 小泉信三伝 / 今村武雄著
文芸春秋 1983年 767p <289.1 / 2099> 資料番号 12361838
- 📖 叱られ手紙 / 秋山加代著
文芸春秋 1981年 291p <289.1 / 1822> 資料番号 12359659
- 📖 父母の暦 / 小泉夕工著
講談社 1981年 227p <281 / 107> 資料番号 12357034
- 📖 届かなかった手紙 父小泉信三との日々 / 小泉夕工著
講談社 1976年 233p <289.1 / 1263> 資料番号 10532844
- 📖 辛夷の花 父小泉信三の思い出 / 秋山加代著
文芸春秋 1976年 253p <289.1 / 1233> 資料番号 10532547
- 📖 小泉信三全集月報
文芸春秋 1972年 合冊 <081.8 / 31 / 28> 資料番号 21525191
- 📖 父小泉信三 / 秋山加代・小泉夕工共著
毎日新聞社 1968年 301p <289.1 / 656> 資料番号 10526044